

# 2023年3月期 第2四半期 決算概況 および第六期中期経営計画見直し説明会

2022年11月16日

株式会社 J-オイルミルズ

問い合わせ先：

コーポレートコミュニケーション部 Tel. 03-5148-7101

# Agenda

1 2022年度 第2四半期 決算概況

2 2022年度 業績予想

3 中期経営計画の見直し

4 参考情報

# 2022年度 第2四半期 連結業績概要

## 2022年度 第2四半期業績

(億円)

	前期	当期	前年差	前年比	第2四半期 予想	進捗率
売上高	940.6	1,229.7	+289.1	+30.7%	1,200.0	+102.5%
営業利益/営業損失	0.6	▲1.5	▲2.1	-%	0.0	-%
経常利益/経常損失	2.3	▲0.2	▲2.5	-%	1.5	-%
親会社株主に帰属する 当期純利益/純損失	7.7	▲1.6	▲9.3	-%	0.0	-%

### 2022年度 第2四半期実績

- 原料価格高騰を受けた価格改定とミール価格の上昇により増収
- 価格改定と継続的なコストダウンを進め収益基盤の強化に努めたものの、原料高や為替相場の円安ドル高進行による原料価格高騰の影響により減益
- 当期純利益は前期の特別利益（ケミカル事業関連売却益約13億円など）の反動により減益

# 2022年度 第2四半期 セグメント別業績

## 2022年度 第2四半期業績

(億円)

	前期	当期	前年差	前年比
<b>売上高</b>				
油脂事業	823.8	1,112.8	+289.0	+35.1%
スペシャルティフード事業	101.5	112.0	+10.4	+10.3%
（内乳系PBF）※	61.1	67.2	+6.1	+10.0%
（内食品素材）※	40.4	44.7	+4.3	+10.7%
その他事業	15.3	4.9	▲10.4	▲68.0%
連結合計	940.6	1,229.7	+289.1	+30.7%
<b>営業利益</b>				
油脂事業	1.2	3.3	+2.1	+177.8%
スペシャルティフード事業	▲2.6	▲5.6	▲3.0	-%
（内乳系PBF）※	▲3.5	▲6.3	▲2.8	-%
（内食品素材）※	0.9	0.7	▲0.2	▲19.2%
その他事業	2.0	0.8	▲1.2	▲61.0%
連結合計	0.6	▲1.5	▲2.1	-%

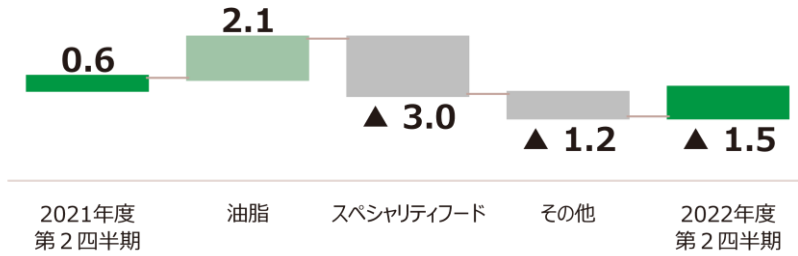
※2022年度より油脂加工品を乳系PBFに名称変更、テクスチャーデザインとファインを食品素材事業に集約

# 2022年度 第2四半期 営業利益増減分析

## 【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円

対前年同期実績



## 【油脂事業 営業利益増減分析】

単位：億円

原材料コスト内訳

大豆	▲40.2
菜種	▲124.6
為替*	▲73.0
購入油	▲33.5
他	▲11.5

高付加価値品の販売

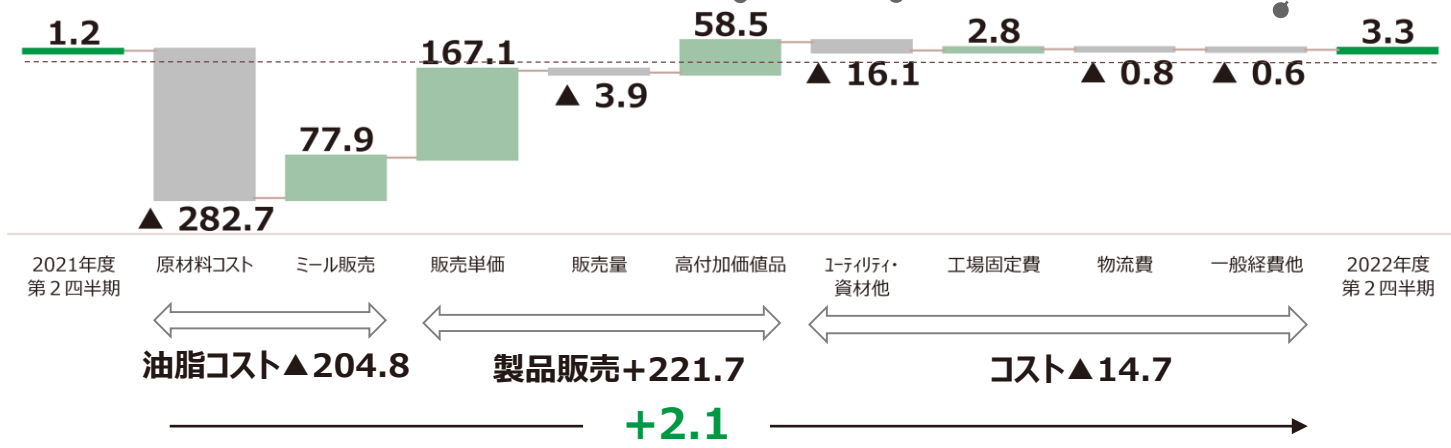
家庭用	▲0.1
業務用	+58.6

1-ティリティ・資材他内訳

1-ティリティ	▲13.3
資材他	▲2.9

一般経費他内訳

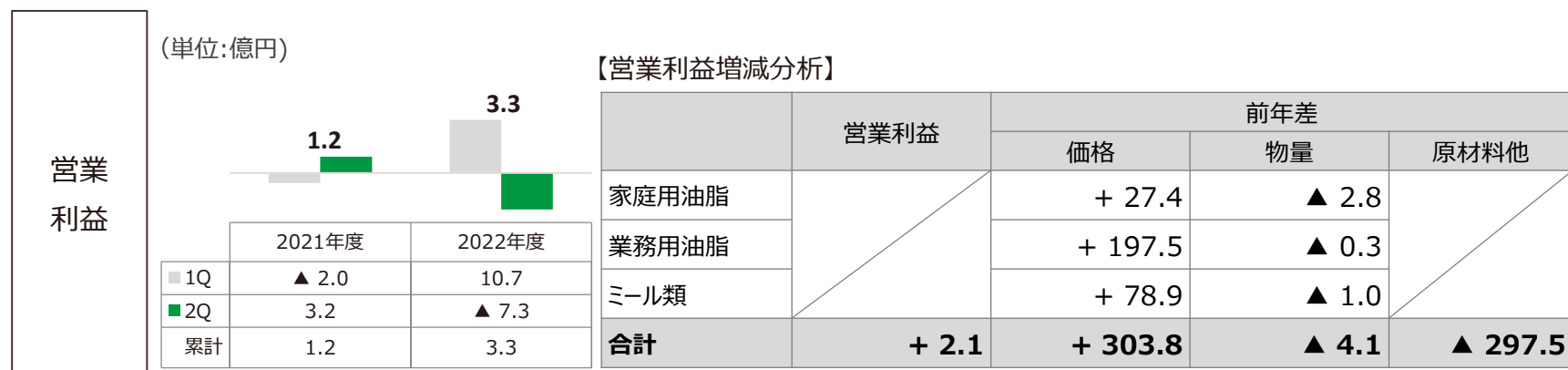
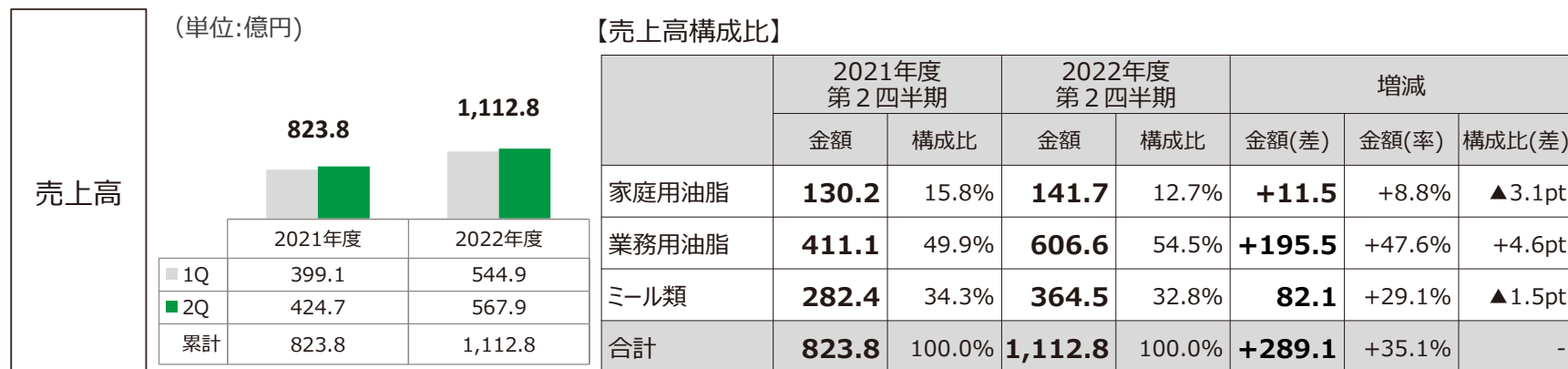
人件費	▲0.7
広告費	▲0.5
販売促進費	▲0.5
その他	+1.1



\*為替・・・21年度第2四半期:108円/1ドル、22年度第2四半期:123円/1ドル

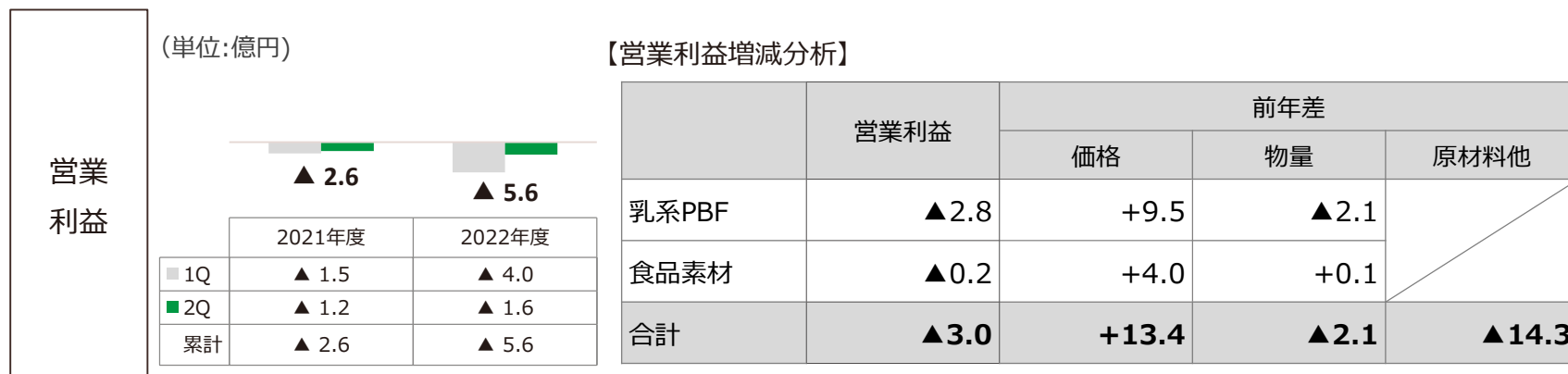
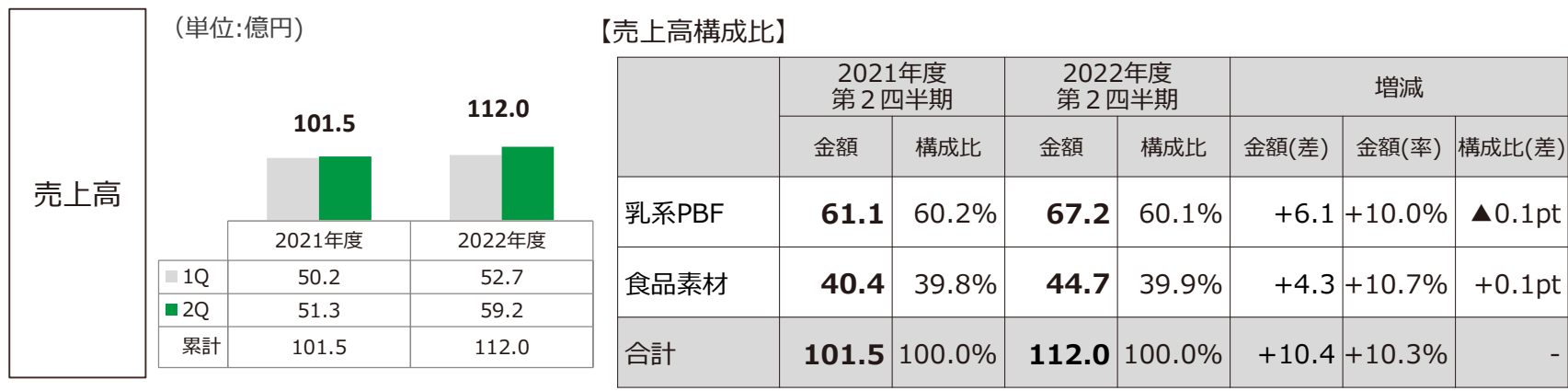
# セグメント別業績：油脂事業

- 売上高は、価格改定による販売価格の上昇と業務用の高付加価値品の拡販により増収
- 営業利益は、円安の進行や原料価格の高騰の影響を受けて厳しい事業環境となったものの、販売価格の上昇により増益



# セグメント別業績：スペシャルティフード事業

- 売上高は、価格改定による販売価格の上昇とスターチの高付加価値品の拡販により増収
- 営業利益は、乳系PBFについては価格改定と構造改革を推進したものの、マーケティング費用の増加により悪化  
食品素材はSOYシートとファインは好調に推移した一方、スターチは価格改定に努めたものの原料価格の高騰を受けて悪化



# 高付加価値品

- 売上高は、販売価格の上昇と業務用油脂の高付加価値品の伸長により増収
- 粗利益は、大豆・菜種及びパーム油・オリーブ油などの購入油の原料価格高騰を受けて、価格改定に努めたものの悪化

## 【セグメント別売上高】

(単位:億円)

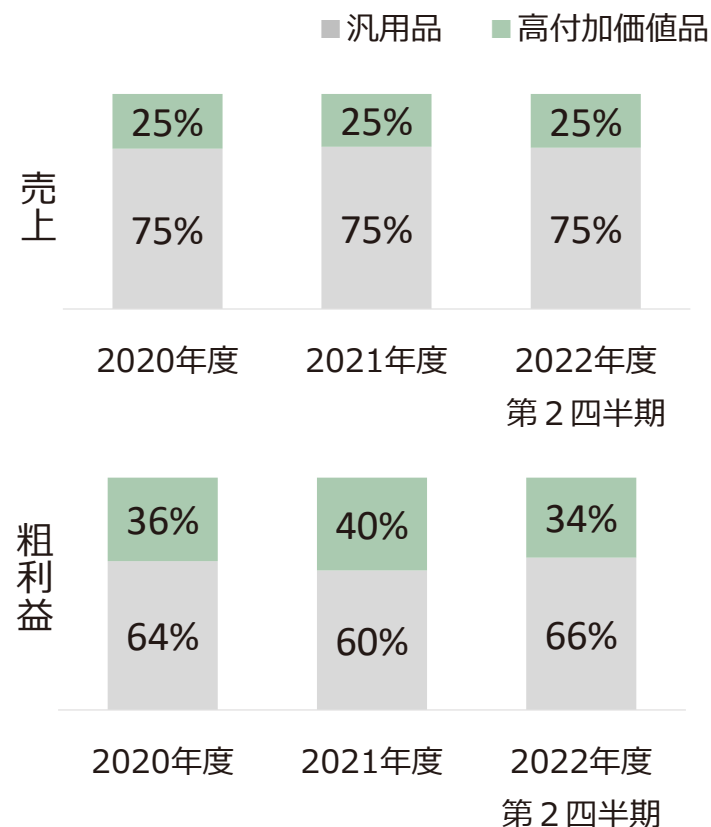
		2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	対前年 増減率
油脂 事業	家庭用	64.6	61.3	▲5.1%
	業務用	117.1	192.5	+64.5%
	合計	181.7	253.8	+39.7%
スペシャルティフード事業		50.3	53.1	+5.6%
高付加価値品合計		231.9	306.9	+32.3%

## 【高付加価値品推移】

(単位:億円)

		2021年度 第2四半期	2022年度 第2四半期	対前年 増減率
高付加 価値品	売上高	231.9	306.9	+32.3%
	粗利益	54.2	45.2	▲16.6%
	粗利益率	23.4%	14.7%	▲8.7pt

## 【高付加価値品 連結構成比】





# B/Sの状況

- 総資産は、売上債権の増加と棚卸資産の増加により前年期末から増加
- 負債は安定的な運転資金調達のため有利子負債の増加により前年期末から増加

## 連結貸借対照表

	21年3月末	22年9月末	増減
流動資産	942	1,096	+154
現預金	36	28	▲ 8
売上債権	351	379	+28
棚卸資産	509	649	+140
その他	46	41	▲ 5
固定資産/繰延資産	675	679	+ 4
有形・無形資	542	541	▲ 1
投資その他	133	138	+ 4
資産計	1,617	1,775	+158

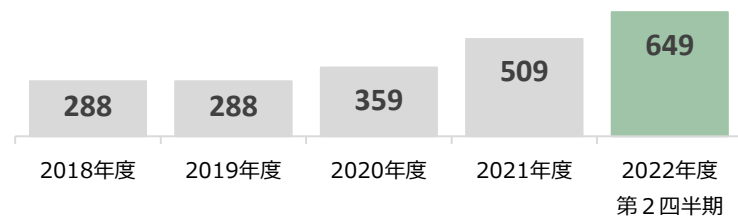
(億円)

	21年3月末	22年9月末	増減
負債	672	831	+159
仕入債務	171	165	▲ 6
有利子負債	306	474	+168
引当金	44	45	+ 1
その他	151	146	▲ 5
純資産	945	944	▲ 1
株主資本	900	890	▲ 10
包括利益他	42	50	+ 9
非支配株主持分	4	4	0
負債・純資産計	1,617	1,775	+158

・原料価格上昇による棚卸資産の増加

### 棚卸資産の推移

(億円)

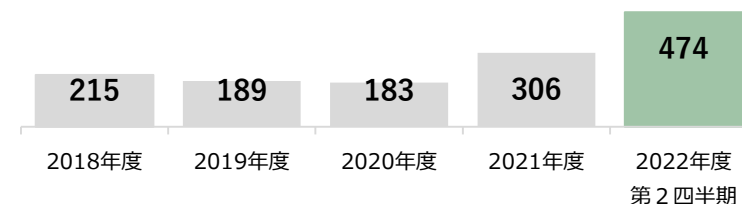


・原料価格上昇により運転資金が増加し、有利子負債増加

### ※ 有利子負債推移

(億円)

※有利子負債・・・社債と借入金の合計値を使用

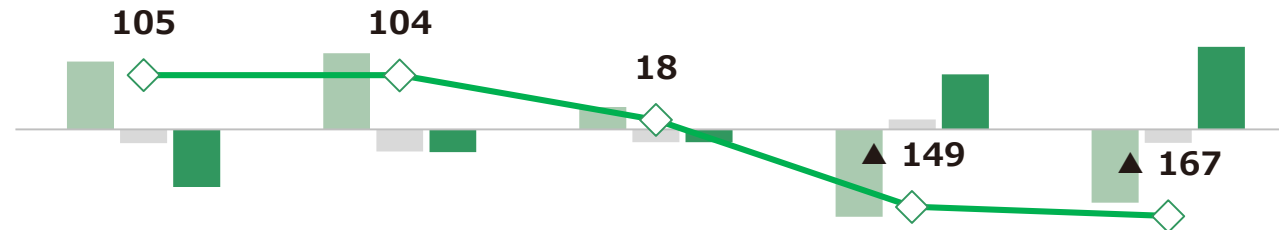


# C/Fの状況

- 価格改定に先行する形で原料価格が上昇した影響により営業キャッシュフローが悪化

## 【キャッシュフロー推移】

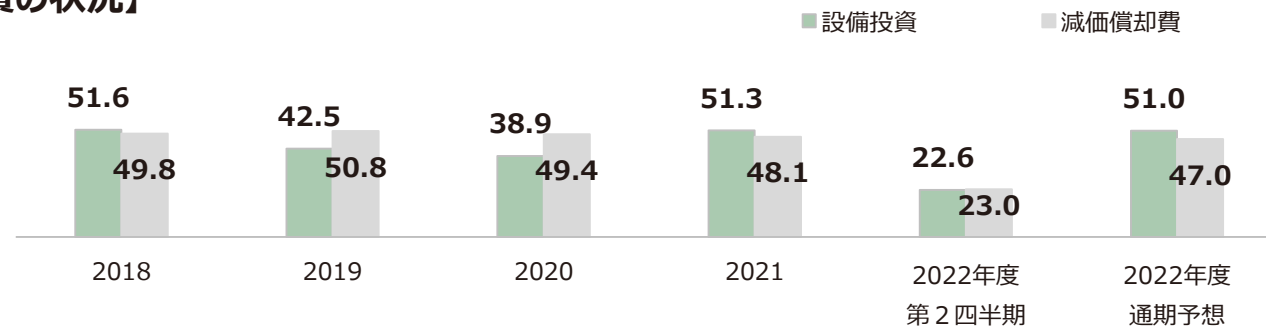
単位：億円



	2018	2019	2020	2021	2022 第2四半期
営業C/F	131	146	43	▲ 168	▲ 141
投資C/F	▲ 26	▲ 42	▲ 24	19	▲ 26
財務C/F	▲ 111	▲ 44	▲ 25	106	159
フリーC/F	105	104	18	▲ 149	▲ 167

## 【設備投資の状況】

(億円)



# Agenda

1 2022年度 第2四半期 決算概況

2 **2022年度 業績予想**

3 中期経営計画の見直し

4 参考情報

# 2022年度 連結業績予想

- 期初の予想から据え置きとする

## 2022年度 通期業績

(億円)

	前期	当期	前年差	前年比
売上高	2,015.5	2,600.0	+584.5	+29.0%
営業利益/営業損失	▲0.2	10.0	+10.2	-%
経常利益	6.0	13.0	+7.0	+117.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19.5	12.0	▲7.5	▲38.6%
営業利益率	- %	0.4%	-	
ROE	2.1%	1.3%	▲0.8PPT	

# 2022年度 セグメント別業績予想

- 期初通期予想は据え置き、セグメント別売上高、営業利益の内訳を修正
- スペシャルティフード事業は価格改定と収益改善により通期でブレイクイーブン

## 2022年度業績予想

(億円)	2021年度	2022年度 期初予想	2022年度 修正予想	前年比	期初予想比
<b>売上高</b>					
油脂事業	1,783.6	2,343.0	2,340.0	+31.2%	▲0.1%
スペシャルティフード事業	211.3	253.0	250.0	+18.3%	▲1.2%
（内乳系PBF）※	127.0	156.0	154.0	+21.3%	▲1.3%
（内食品素材）※	84.3	97.0	96.0	+13.9%	▲1.0%
その他事業	20.6	4.0	10.0	▲51.4%	+150.0%
連結合計	2,015.5	2,600.0	2,600.0	+29.0%	-
<b>営業利益</b>					
油脂事業	3.3	8.0	10.0	+207.2%	+25.0%
スペシャルティフード事業	▲6.2	2.0	0.0	-	▲100.0%
（内乳系PBF）※	▲8.7	▲0.8	▲2.9	-	-
（内食品素材）※	2.5	2.8	2.9	+18.1%	+3.6%
その他事業	2.7	0.0	0.0	▲100.0%	-
連結合計	▲0.2	10.0	10.0	-	-

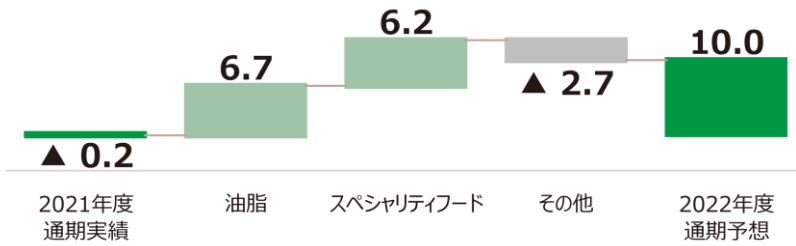
※2022年度より油脂加工品を乳系PBFに名称変更、テクスチャーデザインとファインを食品素材事業に集約

# 2022年度予想 営業利益増減分析

対前年実績

## 【セグメント別営業利益 増減】

単位：億円

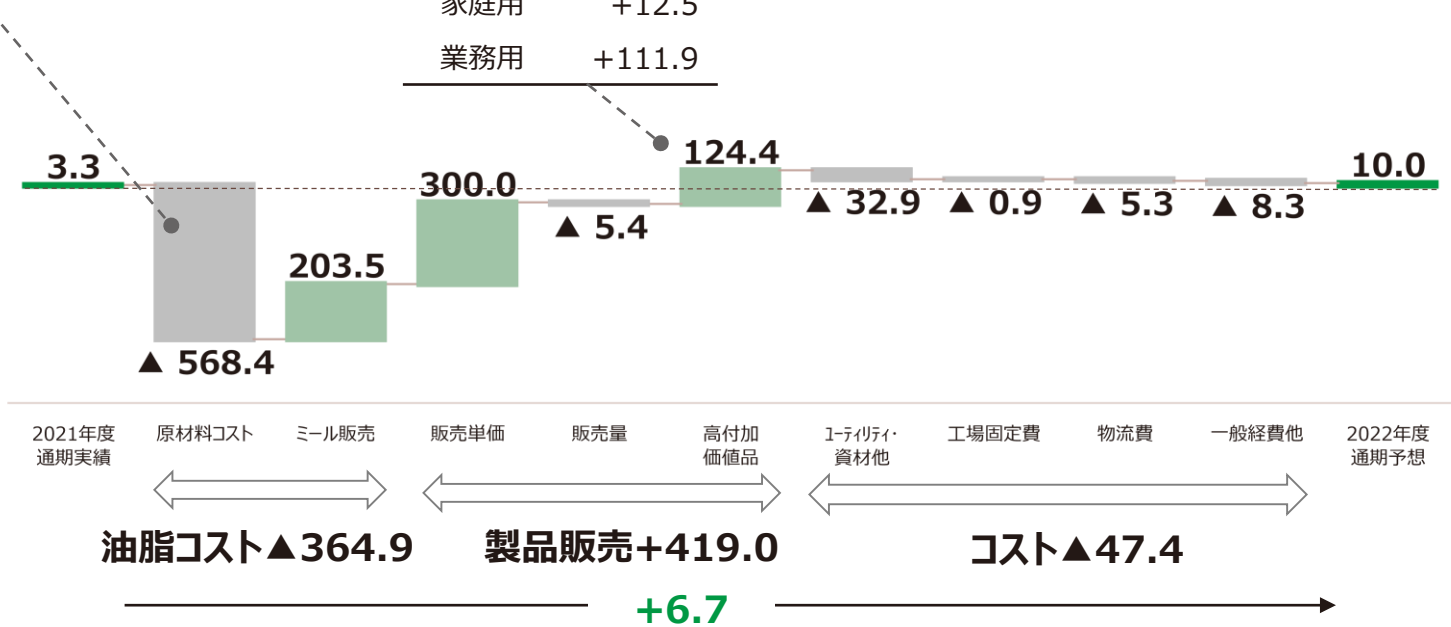


## 【油脂事業 営業利益増減分析】

単位：億円

高付加価値品の販売	
家庭用	+12.5
業務用	+111.9

原材料コスト内訳	
大豆	▲87.4
菜種	▲142.5
為替*	▲227.4
購入油	▲50.7
他	▲60.3



\*為替・・・21年度:110円/1ドル、22年度予想:132円/1ドル

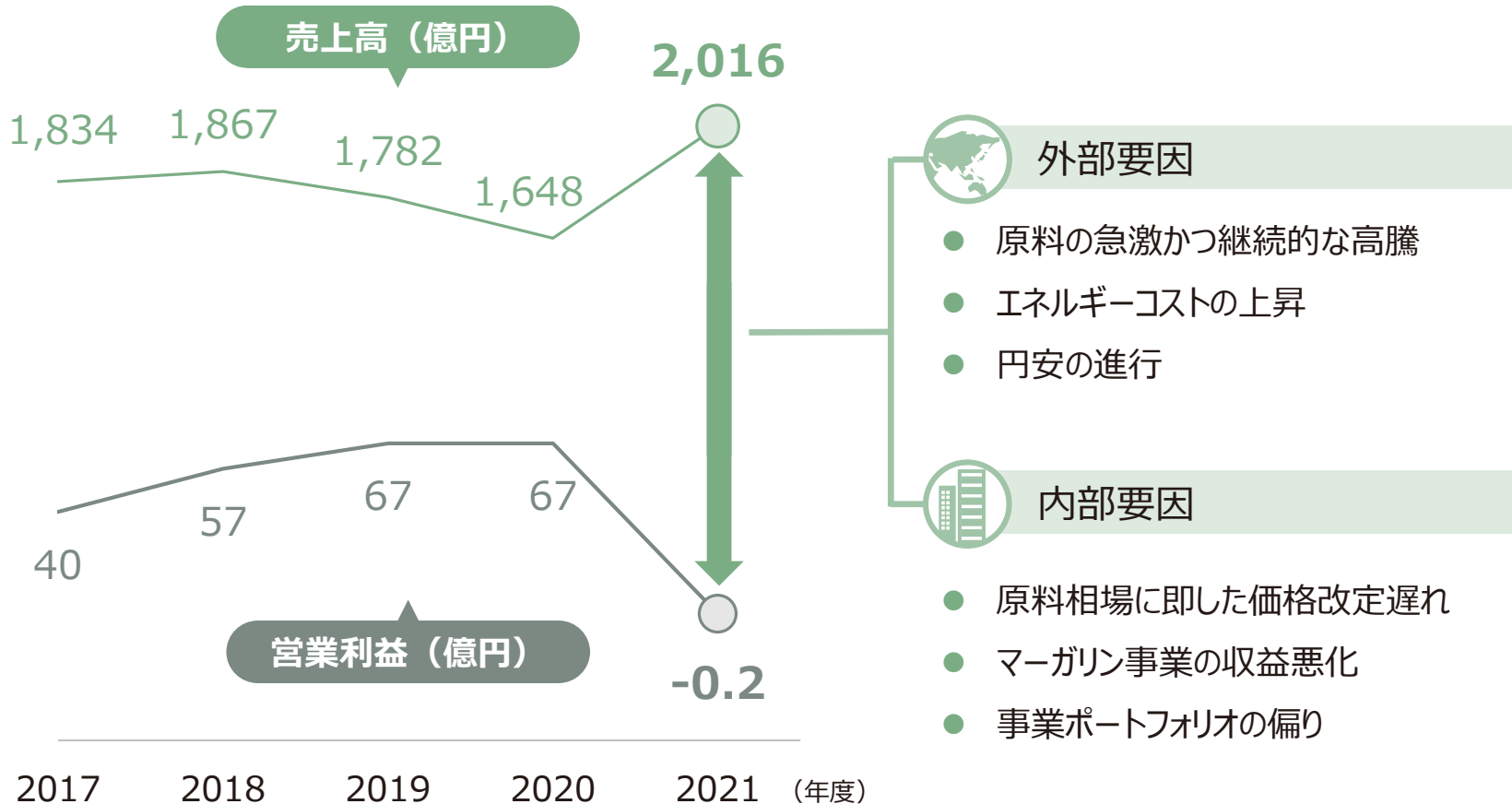
# Agenda

- 1 2022年度 第2四半期 決算概況
- 2 2022年度 業績予想
- 3 **中期経営計画の見直し**
- 4 参考情報

## 中期経営計画見直しに至る背景

食用油原料の構造的な需要の変化や世界情勢の動向など、当社を取り巻く外部環境の変化に対応できる基盤や体制が整っていなかった

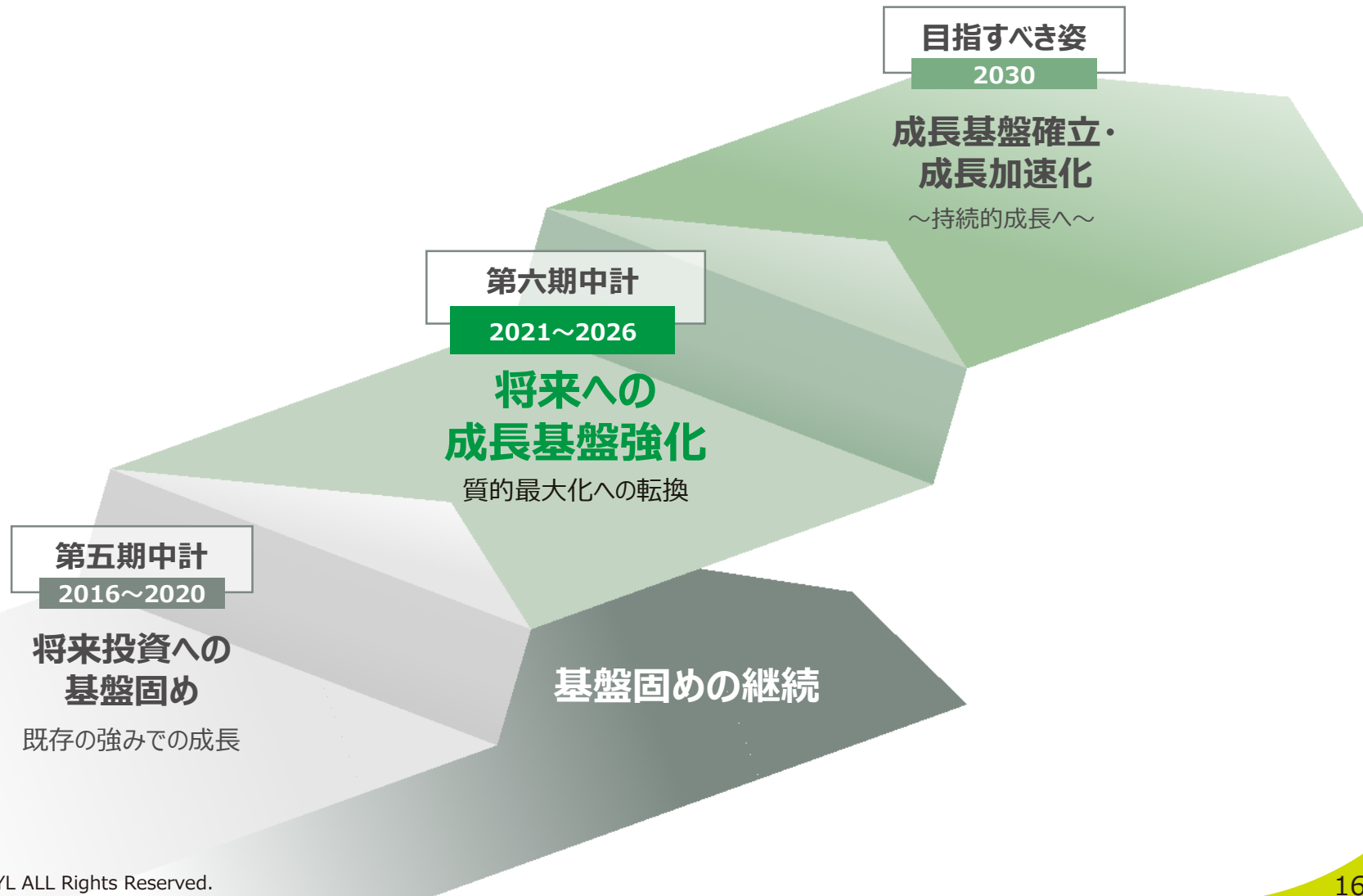
売上高・営業利益の推移





## 中期経営計画見直しの位置づけ

将来投資への基盤固めを継続するとともに将来への成長に向けた投資を強化していく



## 2020年度 営業利益水準への回復

早期に2020年度以前の利益水準まで戻していく

### Point 1

外部環境に応じた  
マージンコントロール

価値に見合った価格形成

### Point 2

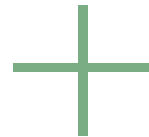
商品ミックスの改善

高付加価値商品の構成比増

### Point 3

不採算事業  
収益化

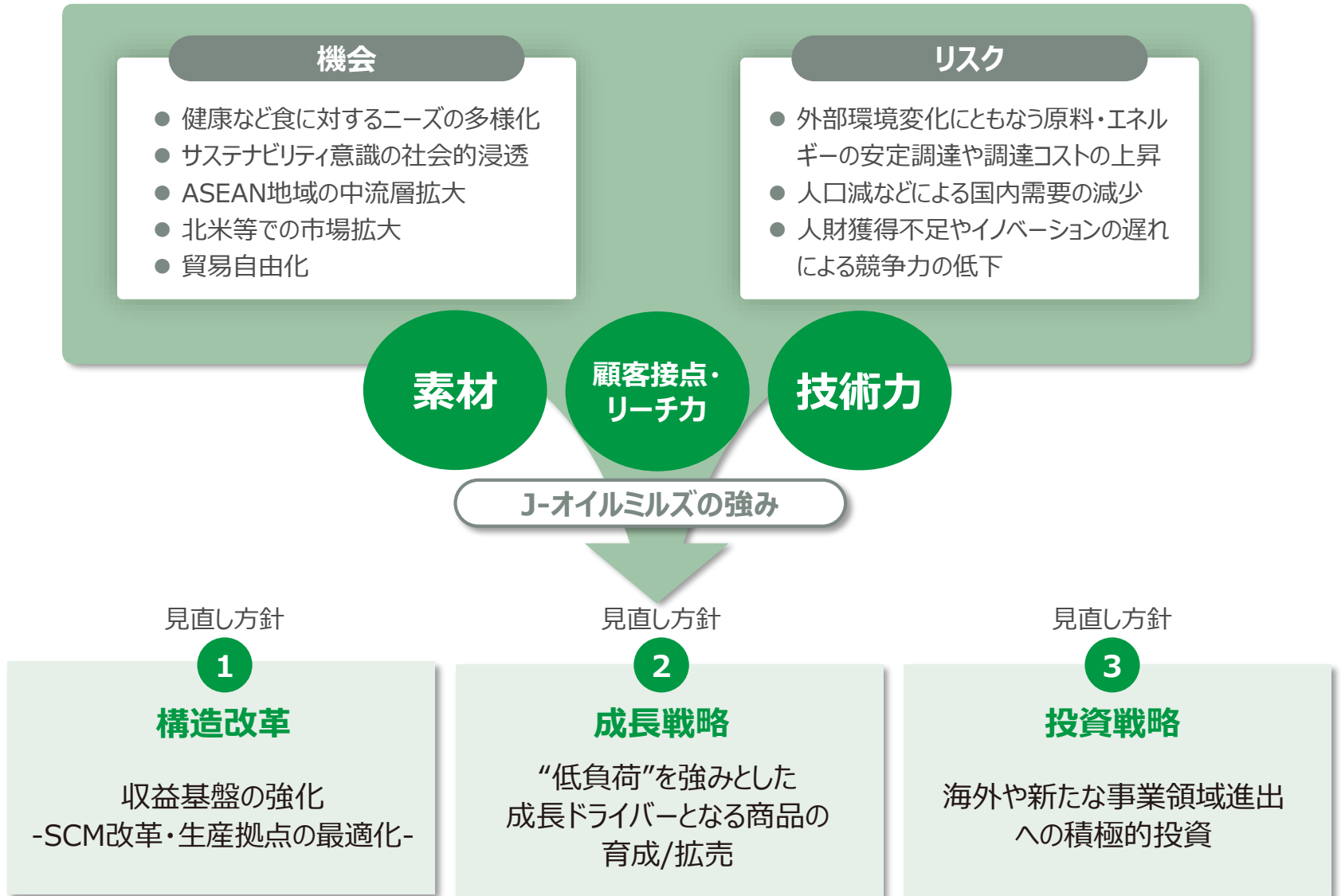
マーガリン事業  
2023年度利益貢献



### コロナ禍からの需要回復

- 人流の回復にともなう外食市場の回復
- 海外旅行者の増加による土産菓子需要の回復

# 中期経営計画見直しの方向性



SCM(Supply Chain Management):サプライチェーンマネジメント

## 中期経営計画見直しの定量目標

基盤固めの期間として第六期中期経営計画の達成年度を2年延期  
経営環境の変化に機動的に対応するとともに、資本効率を重視した成長を図る

	当初目標		修正目標
	2024年度	+2年	2026年度
売上高	2,200億円		—
営業利益	110億円		110億円
営業利益率	5.0%		—
ROE	8.0%		8.0%
ROIC	<b>5.5%</b>	▲0.5%	<b>5.0%</b>
EPS	260円		260円

## 構造改革：収益基盤の強化

SCM改革によるコスト削減と生産拠点の最適化を実施

### 3つの SCM改革

- 1 製造物流工程における効率化
- 2 省人化・自動化投資
- 3 SKU数・在庫水準の最適化

### 3つの 生産拠点改革

- 1 油脂生産工程の稼働率最大化
- 2 国内生産拠点の再構築
- 3 海外生産拠点の活用

SCM(Supply Chain Management): サプライチェーンマネジメント

# 成長戦略：“低負荷”を強みとした成長ドライバーとなる商品の育成/拡売

“低負荷”を強みに各事業において面を広げ、当社シェアを拡大していく

おいしさ



低負荷



健康

## J-オイルミルズが提供する負荷低減

### 労働の負荷

- 油の交換回数の減少

### 環境への負荷

- プラスチック使用量減
- CO<sub>2</sub>排出量減
- 耕作地の削減

### 経済的な負荷

- 油の長持ち効果による  
使用量減

#### 業務用油脂

環境配慮型商品や油長持ち支援  
サービスによりシェアを拡大



#### 家庭用油脂

スマートグリーンパック® (SGP) を  
起点に成長カテゴリを横断的に拡大



#### スペシャリティフード

PBFのワンストッププロバイダーとなり、  
市場のリーディングカンパニーを目指す



PBF(Plant-based food) : プラントベースフード

# R&D戦略

コア技術を軸に独自の付加価値を創出し、お客様の課題解決に貢献



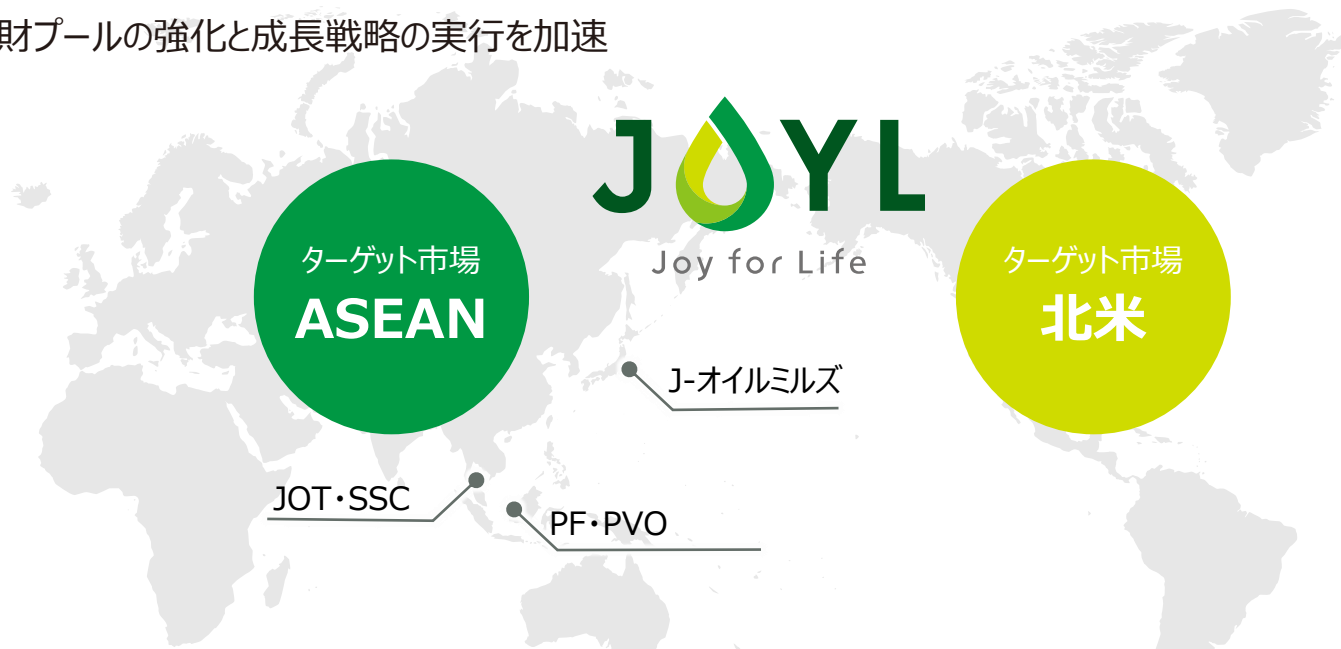
※1: アプリケーション・評価技術: 味・機能・工業化プロセス  
 ※3: 成分・構造制御技術: 脂質・風味・食感

※2: 生産・製造技術: 搾油・精製・充填・成形

## 成長戦略：海外

伸長市場である北米・ASEANに経営資源を投入  
独自の技術・強みを活かし、オーガニックと新たな領域の両面で成長を実現

- 海外事業の推進体制強化
- 海外人財プールの強化と成長戦略の実行を加速



### 製菓製パン・テクスチャー素材

- ・ 独自素材×用途開発
- ・ 海外拠点強化

独自技術・強みを  
活かし  
事業領域を拡大

### ファイン・テクスチャー素材

- ・ Soyシート : 地域・用途の拡大
- ・ Vitamin K<sub>2</sub> : 健康訴求トレンドに沿ったブランド展開、販路拡大

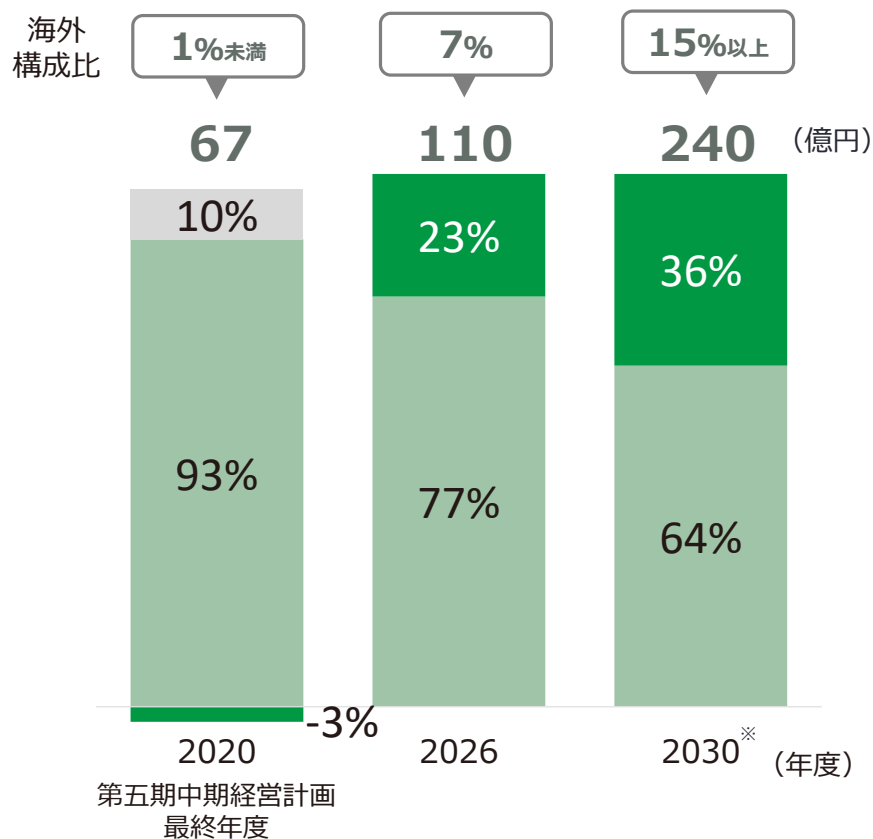


# 事業ポートフォリオの変革

## 国内油脂事業に依存する事業モデルからの脱却

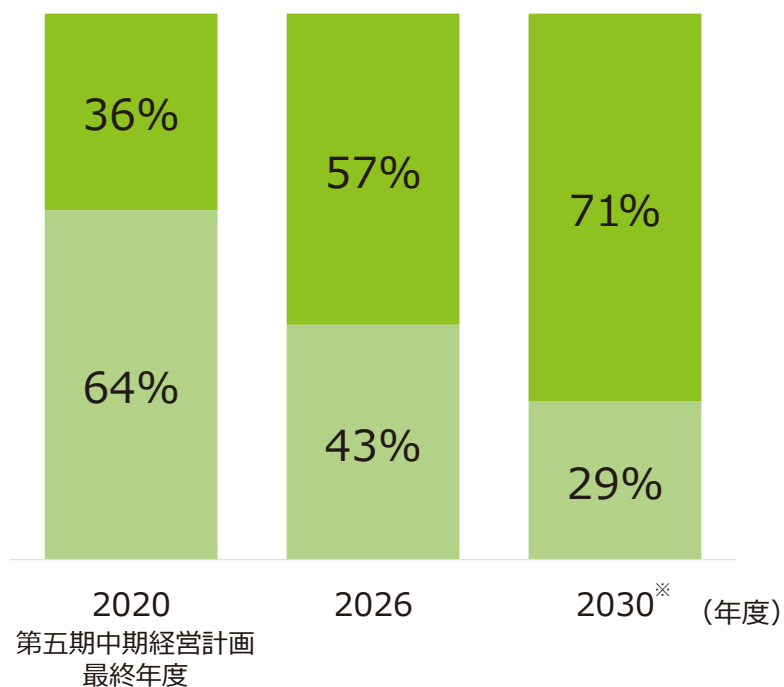
事業セグメント別構成比率（営業利益）

■ 油脂 ■ スペシャルティーフード ■ その他



高付加価値品構成比率（粗利益）

■ 汎用品 ■ 高付加価値品（国内+海外）



※第六期中期経営計画当初目標値（2021年5月20日公表数値）

## キャピタルアロケーション計画 (FY2022-FY2026)

将来に向けて、オーガニック、インオーガニック成長機会の両面で積極投資を実施

営業キャッシュフロー  
**180億円**

資産圧縮  
**50億円**

外部資金調達  
**240～470億円\***

総額 **470～700億円**

設備投資  
**220億円**

- スマートファクトリー・生産性向上投資
- 環境投資
- 維持・更新投資

事業投資  
**140～370億円**

- 高付加価値商品の継続的開発・市場投入
- 北米・ASEAN成長戦略
- PBF事業拡大
- 新規事業開発の推進

配当還元  
**110億円**

- 配当性向40%を目安に安定的な配当

※D/Eレシオ 0.5～0.7倍

## 日清オイリオグループ<sup>®</sup>(株)との搾油合弁会社設立について

### 日清オイリオグループ株式会社と株式会社 J-オイルミルズ 搾油機能の全国統合、および西日本エリアにおける搾油合弁会社設立に関する基本合意のお知らせ

- 「油脂と油粕の安定的な供給」、「持続可能な国際競争力の強化」の実現と、「環境・社会課題の解決」を通して広く社会に貢献することを目的に、搾油機能の全国統合、および西日本エリアにおける搾油合弁会社を設立することで基本合意
- 今後50年以上先の環境変化を見据え、国内搾油業の国際競争力強化と安定供給を長期にわたって確保する共同運営体制の構築を目指すとともに、AIやIoTの活用によるスマートファクトリー化、脱炭素社会への取り組みなど、環境・社会課題への解決にも繋がる「次世代型搾油工場」の構築に向けた取り組みを推進する

#### 合弁会社の概要

- (1) 設立時期 2023年4月を予定
- (2) 本店所在地 岡山県倉敷市
- (3) 対象工場 日清オイリオグループ水島工場（搾油工程）、J-オイルミルズ倉敷工場
- (4) 事業内容 日清オイリオグループおよびJ-オイルミルズからの搾油受託事業（原油と油粕の製造）

※合弁会社の設立にあたっては関係当局の許認可等が得られることを条件としている

# おわりに

## 目指すべき未来

Joy for Life

食で未来によるこびを

おいしさ × 健康 × 低負荷で  
人々と社会と環境へのよこびを創出

## 私たちの使命

おいしさデザイン®で  
「食べる」と「つくる」の  
課題と向き合い  
より良い社会に貢献する

## 私たちの価値 ／ 存在意義

壁を越え、共に挑み、期待を超える

個の力を高める      独自の価値を創る      仲間と価値を広げる  
知と技の融合      強みの掛け算      共生・共創

真面目に一步踏み出す      人に寄り添い自己も活かす  
真摯に冒険      尊重と自信

生活に欠かせないあぶらを原点に  
自然の恵みから可能性を引き出し  
確かな品質で食を支え続ける

# Agenda

- 1 2022年度 第2四半期 決算概況
- 2 2022年度 業績予想
- 3 中期経営計画の見直し
- 4 **参考情報**

# J-オイルミルズの基本戦略

## 外部環境変化

内食需要の高まり 外食産業のコストダウンニーズ 消費者健康意識の高まり 社会課題への対応・要請



Joy for Life

食で未来によるこびを  
Vision Mission Value

ステークホルダーの期待に応える

マーケティング・  
ブランド戦略

高付加価値化  
推進

海外展開の  
加速

汎用油の  
収益性改善

バリューチェーン  
&業務  
プロセス改革

戦略目標

顧客接点・  
リーチ力

素材

技術力

+

マーケ  
ティング

R&D

J-オイルミルズ  
の強み

おいしさデザイン®

サステナビリティ

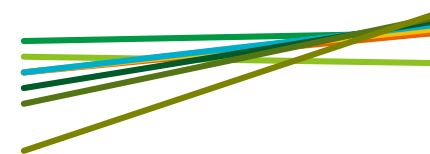
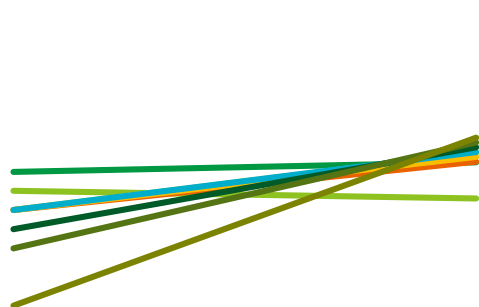
リスク対応力・  
グループガバナンス強化

ダイバーシティ・エクイティ  
&インクルージョン

資産効率改善

経営基盤

# 第六期中期経営計画



第五期中計  
2017～2020

第六期中計  
2021～2026

目指すべき姿  
2030

## 成長戦略

- |   |   |   |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高付加価値品の粗利益構成比増加</li> <li>● 油脂製品の粗利益率改善</li> <li>● マレーシアでのM&amp;Aによる事業展開</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● JOYLブランド価値向上</li> <li>● 高付加価値品の拡大</li> <li>● 油脂汎用品の収益力改善</li> <li>● 海外・スペシャリティフード事業強化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● JOYLブランド確立</li> <li>● 高付加価値品の拡大加速</li> <li>● 油脂汎用品の安定的収益創出</li> <li>● 海外・スペシャリティフード事業拡充</li> </ul> |
|---|---|---|

## 構造改革









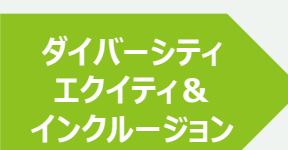







- |  |   |  |
|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● SKU削減</li> <li>● グループ会社統合</li> <li>● 事業撤退/譲渡</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● バリューチェーン&amp;業務プロセス改革</li> <li>● 資産効率改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生産体制の最適化完了</li> <li>● 資産効率の一層の改善</li> </ul> |
|--|---|--|

## 経営基盤強化

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● ガバナンス強化</li> <li>● コーポレート機能の強化</li> <li>● 人事制度の改定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ダイバーシティ・エクイティ&amp;インクルージョン</li> <li>● リスク対応力・グループガバナンス強化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 選ばれる会社へ</li> <li>● グループ会社ガバナンス強化 (海外含む)</li> </ul> |
|---|--|---|

# サステナビリティへの取り組み

気候変動や調達、DE&I、商品開発への取り組みを実施中

社会課題	主な取り組み	FY30 目標	SDGsへの貢献
 <p>気候変動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>GHG(CO<sub>2</sub>排出)削減</li> <li>カーボンニュートラルに向けた取り組み開始</li> <li>TCFDに関するリスクと機会の特定、シナリオ分析を実施し財務インパクトを開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO<sub>2</sub>排出量50%削減 (Scope 1+2 FY2013対比)</li> <li>ノンフロン化(低GWP含)</li> <li><b>FY50まで</b> ●カーボンニュートラル (Scope 1+2)</li> </ul>	  
 <p>サステナブル調達</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライチェーンのESGマネジメント実施 (人権・環境への配慮)</li> <li>パーム油トレーサビリティ向上、認証油供給体制強化、大豆調達方針策定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナブル調達の深化</li> <li>農園までのトレーサビリティ100%</li> </ul>	  
 <p>ダイバーシティ エクイティ&amp; インクルージョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人財育成</li> <li>マネジメント意識改革</li> <li>DE&amp;Iの専任組織設置 (DE&amp;I推進室)</li> <li>多様な人財が共創できる組織風土の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性管理職比率30%</li> <li>外国籍人財の登用</li> </ul>	   
 <p>サステナブル商品開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境チェックリスト運用開始</li> <li>環境配慮型容器の開発と上市</li> <li>カーボンフットプリント認証取得拡大</li> <li>トランス脂肪酸低減に向けた商品の開発、情報開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラスチック廃棄ゼロ化</li> <li>自社包材への循環採用開始</li> <li>廃棄物ゼロエミッション*</li> </ul>	 

\*当社定義：工場・事業所から発生する産業廃棄物について、単純焼却・埋立処分を行わないこと（再資源化率99.9%以上）



# 主な経営指標

	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 予想	2024年度 当初目標	2026年度 修正目標	2030年度 目標※2
	第五期中期経営計画				第六期中期経営計画			+2年	
売上高	1,834	1,868	1,782	1,648	2,016	2,600	2,200	-	2,500
営業利益	40	57	67	67	-0.2	10	110	110	240
営業利益率	2.2%	3.0%	3.7%	4.1%	0.0%	0.4%	5.0%	-	9.0%以上
ROE	4.9%	5.6%	5.9%	5.7%	2.1%	1.0%	8.0%	8.0%	12.0%以上
ROIC	2.4%	3.6%	4.3%	4.1%	-0.0%	0.5%	5.5%	5.0%	8.0%
EPS (円) ※1	124.8	144.2	158.1	159.6	59.2	30.0	260	260	500以上
D/Eレシオ	0.42	0.30	0.26	0.24	0.32	0.48	-	-	0.50以下
CCC	117日	112日	114日	124日	118日	-	-	-	-
配当性向	36.1%	31.2%	31.6%	31.3%	84.2%	66.2%	40%	40%	40%

※1：株式併合・分割換算後

※2：第六期中期経営計画当初目標値（2021年5月20日公表数値）

※3：M&A等による成長投資を最大300億円実施した場合は0.7迄増加見込み

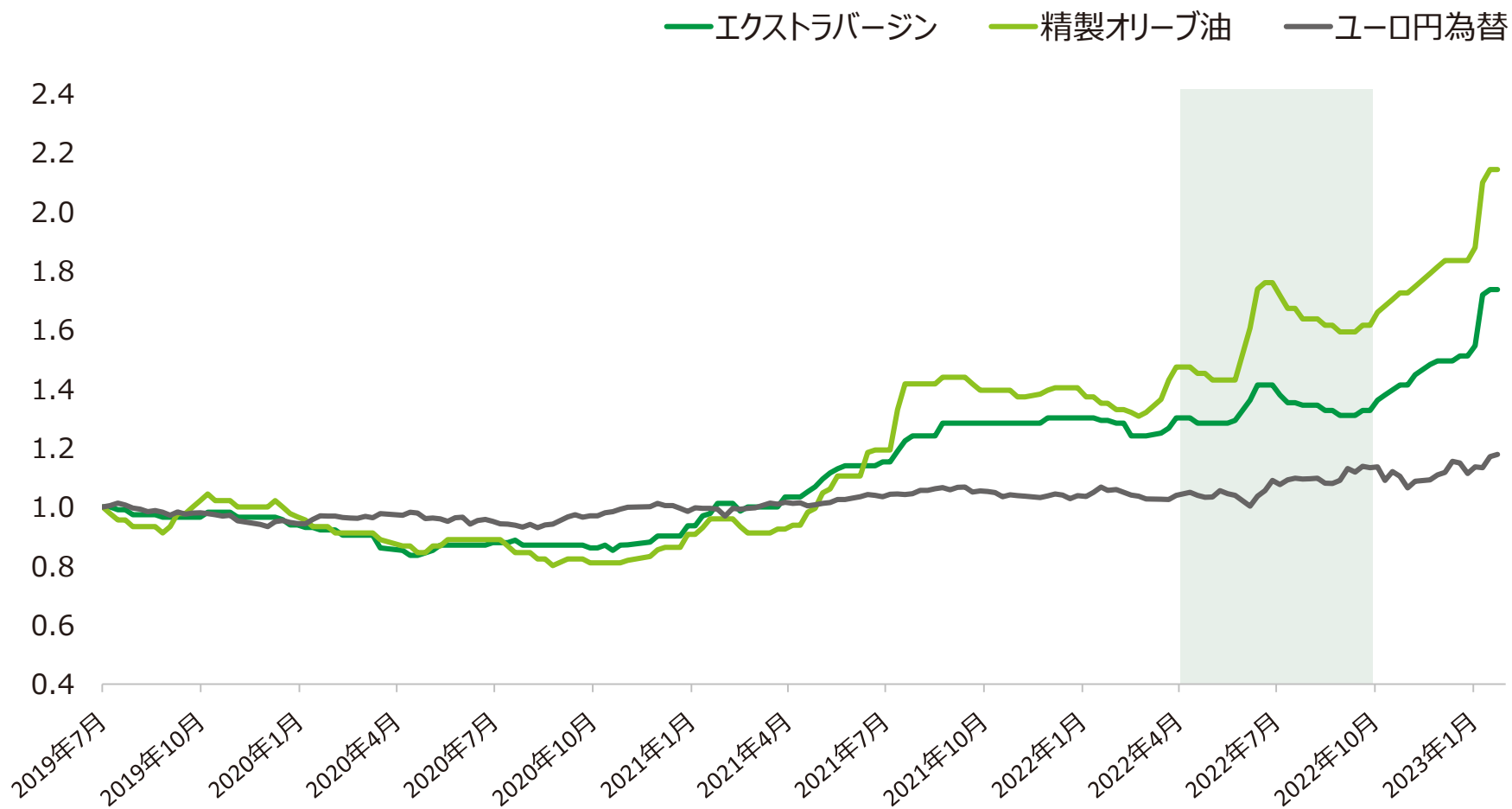
# 大豆、菜種、為替(米ドル)の相場動向

\* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする(図中では2019年7月を1となる))

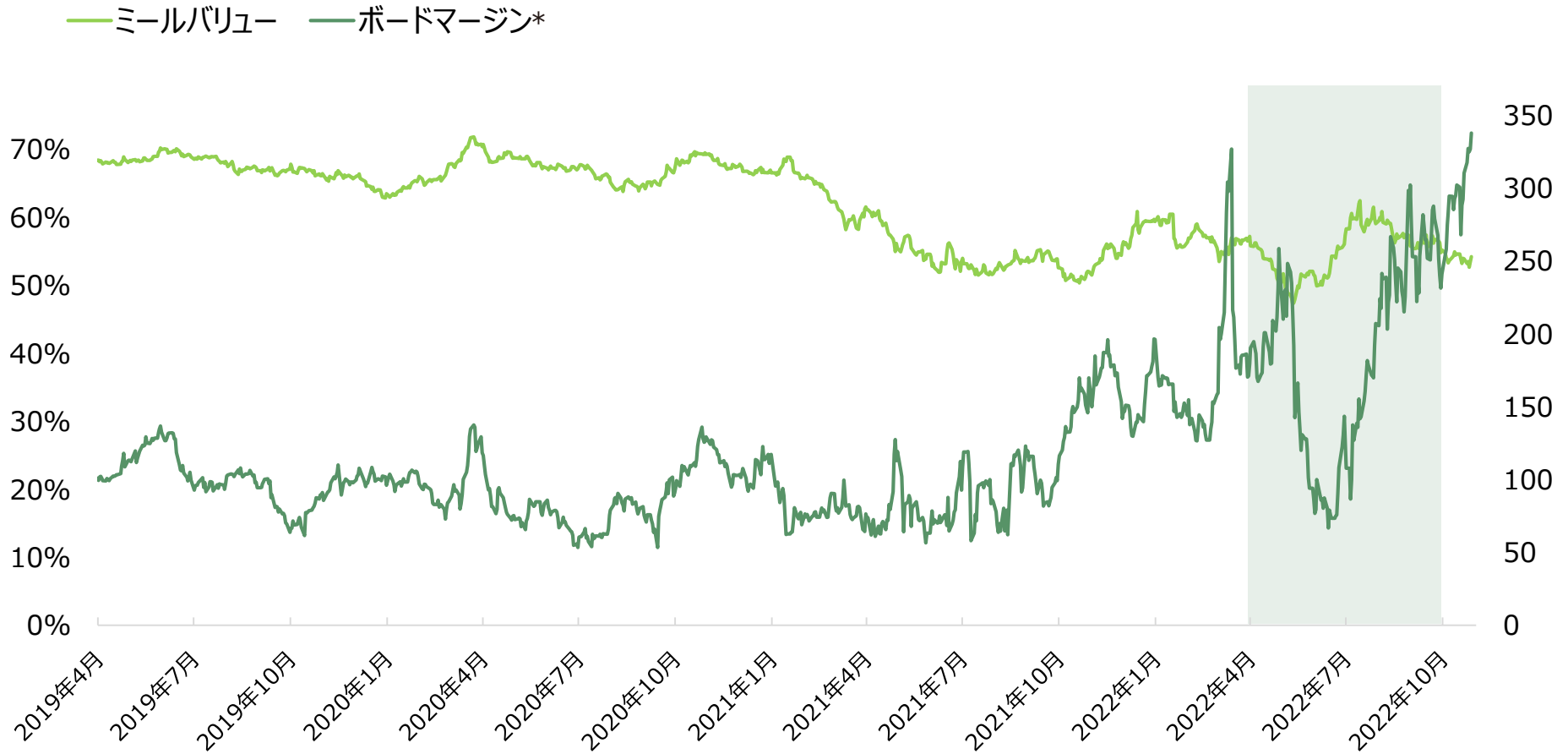


# オリーブ、為替(ユーロ)の相場動向

\* 原料調達状況に近づけるため、相場データを3ヶ月ずらして表示(2019年4月を1とする (図中では2019年7月を1となる))



# ミールバリューの動向



\*シカゴ大豆定期1ブッシェルから産出する大豆油と大豆ミールの価値の合計と大豆1ブッシェルの価格の差

# 原材料動向

## ■ 外部環境：原料・為替状況

	22'1Q		22'2Q		22'3Q		22'4Q <sup>※6</sup>	
	結果 (前年)	対前年差	結果 (前年)	対前年差	結果 (前年)	対前年差	前提 (前年)	対前年差
大豆 ¢/Bu <sup>※2</sup>	1,559.0 (1,391.6)	+167.4	1,684.2 (1,497.3)	+186.9	1,530.0 (1,358.6)	+171.4	1,380.0 (1,254.3)	+125.7
菜種C\$/MT <sup>※3</sup>	1,057.3 (737.7)	+319.6	1,123.3 (864.7)	+258.6	835.9 (885.4)	▲49.5	878.4 (993.7)	▲115.3
ミルバ <sup>リ</sup> 1-%	57.0 (63.8)	▲6.8	52.3 (55.9)	▲3.6	58.0 (53.2)	+4.8	53.9 (54.8)	▲0.9
海上運賃us\$/t <sup>※4</sup>	77.8 (58.2)	+19.6	85.4 (68.4)	+17.0	69.5 (89.6)	▲20.1	64.6 (82.4)	▲17.8
為替レート <sup>※5</sup>	117.3 (107.0)	+10.3	130.7 (110.5)	+20.2	139.4 (111.1)	+28.3	148.0 (114.7)	+33.3

※1: 搾油原料の買付けは基本的に約3カ月前の時点にて行っており、本図では各期の業績に影響のある期間相場の平均値を示しています  
 ※2: シカゴ相場 ※3: ウィネベグ相場 ※4: US Gulf-Japan PANAMAX ※5: 為替TTSレート  
 ※6: 2022年5月20日公表値から現在の相場状況などをふまえ修正しました



JOYL

Joy for Life